

# 河川村栄え 国破れ 山河なし

## ハツ場ダムの建設根拠 = 基本高水のデタラメな検証結果

関 良基(拓殖大学准教授)

日本学術会議による基本高水の再検証作業が終わった。結論は従来の数値とほとんど変わらない国交省の新モデルによる計算値 2 万 1100m<sup>3</sup>/秒を追認するという驚くべきものだった。「もうこの国は終わりではないか」と心配になるばかりだ。

学術会議の「検証」はゴマカシ以外の何物でもない。細部を書き出すとキリがないので、象徴的な点を一つだけ例示させていただきたい。私がハツ場ダム住民訴訟の原告の皆様に頼まれて基本高水の検証を行った際に明らかになったことは、1950 年代の洪水に適合するように構築された国交省の計算モデルで 1980 年代や 90 年代の洪水を再現計算すると、計算流量は実績流量に比べ過大に計算されるという事実だった。計算流用よりも実績流量は 20~25%ほども低くなった。

これは森林の生長による保水力の増加を示すもので、保水力増加の分だけ基本高水も低下させなければならないというごく常識的な事実だった。

この点を日本学術会議はどのように検証したのであろうか。もし学術会議が再計算して実績流量が計算流量に比べて低減していくという効果が認められなかったとしたら、私が東京高裁に出した意見書の計算は間違っていたということだ。

学術会議は、国交省が「愛用」する貯留関数法ではなく、分布型モデルという汎用性の高い最新のモデルで検証計算をしている。東大が作成したモデルである。その結果を見よう。次の二つの図は、学術会議の基本高水評価検討等分科会の第

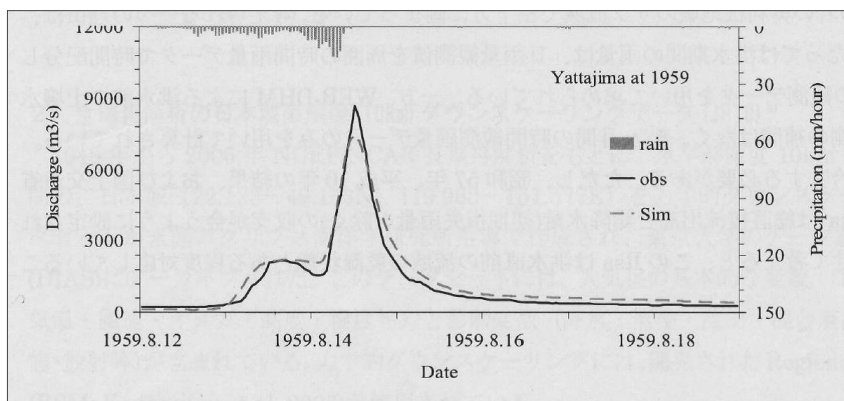


図4 1959年 8月12日~8月19日

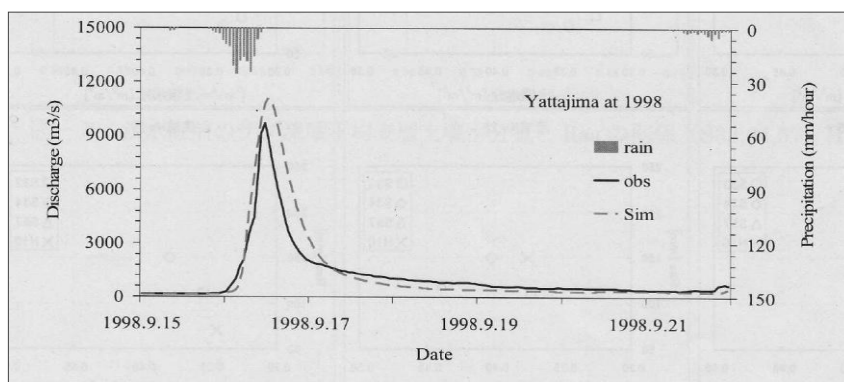


図6 1998年 9月15日~9月22日

10 回分科会（2011 年 6 月 13 日開催）の資料 6 に掲載されていたものである（図 4、6 のみ転載）。上の図 4 は 1959 年洪水の検証計算。下の図 6 は 1998 年洪水の検証計算の結果である。いずれの図でも、上の棒グラフは降雨量、下の実線は観測による実績流量、点線はモデルに基づく計算流量である。

計算流量は同じ植生状態、同じ土壌の厚さという条件で作成したモデルでの計算値なので、もし森林の保水力が上昇しているのであれば、計算流量に比べて年が下ると実績流量が下がっていくはずである。国交省の場合、鉛筆を舐めて、実績流量のグラフと計算流量のグラフをピタリと一致させるというインチキをやってきた。しかしさすが東大である。国交省と違って鉛筆は舐めない。私が東京高裁に出した意見書と同じ結果が出ている。

1959 年洪水では実績流量が計算流量より 10%以上高いが、1998 年洪水では実績流量は計算流量に比べて 10%以上低い値に下がっている。あわせれば 20%以上、実績流量が低下してきたことになる。しかし驚くべきことに、日本学術会議は以下のように結論している。

「図 - 4（1959 年洪水）および図 - 6（1998 年洪水）の洪水ピーク流量の差は、森林植生の成長による植生層の変化による影響とは考えられない。」

森林の変化とは関係ない別要因によって、たまたま下がっているように見えるだけであって、森林が洪水を緩和しているんじゃないよ、と結論してしまったのだ。では 1998 年はなぜ実績流量が下がっているのだろう。驚くべきことに、下がった理由に関しては何の説明もしていないのだ。学術会議が森林保水力向上を否定する理屈は稚拙・非科学的なもので、およそ「検証」の名に値しない。過大な基本高水を維持するために実績流量の低下という事実を捻じ曲げているのである。

かりに 1998 年洪水における 13%の誤差がそのままカスリーン洪水の再来計算（＝基本高水）に反映されると仮定すると、実際のピーク流量は、計算値よりも 13%低くなる。つまり  $2 \text{ 万 } 460 \times 0.87 = 1 \text{ 万 } 7800$  となる。1998 年状態の森林保水力を反映すれば、基本高水はこの程度に下がっているということだ。しかし学術会議は、森林変化による流量低減を無視し、国交省による過大な基本高水を追認してしまったのだ。

今回の「検証」を通して明らかになったこと。馬淵大臣は「第三者」に検証を依頼したのであるが、日本学術会議は第三者ではなかったということである。原子力村と同じく河川村の癒着構造が浮き彫りになったのだ。学術会議の委員の一人は（株）建設技術研究所に勤務している。このコンサルタント会社は、2005 年に利根川の基本高水 2 万 2000 を定めた社会整備審議会・河川整備基本方針検討小委員会で捏造資料を作って出してきた当事者である。国交省とコンサルのインチキを暴く「第三者」機関の中に、インチキをしたコンサルに所属する当事者が名を連ねているのだ。そして委員の多くが所属する日本土木学会の前会長は、河川局の元局長の近藤徹氏である。

第三者と称しつつ、同じ村の仲間を必死にかばったのである。官・業・学の村社会は癒着を超えた一心同体。この村社会が国民の血税に寄生して生きながらえようとしている。村栄え、国破れて山河もなくなるのであろうか。もはや絶望感しか残らない。

### 緊急検証セミナー 第3回

日本学術会議河川流出モデル・基本高水評価等検討分科会による「検証」を検証する  
**利根川の基本高水の検証で、日本学術会議は何を明らかにしたか？**

日 時：2011年7月19日(火)18:00～19:00

場 所：参議院議員会館 地下1階B107会議室

(17:40～18:00 1階ロビーで入館証をお渡しします)

スピーカー：高橋利明弁護士、国交省水管理・国土管理局河川計画課(交渉中)ほか

主 催：治水のあり方シフト研究会(連絡先：090-6489-0362)

# 日本学術会議の基本高水検証を検証する、連続院内集会 開催

去る6月20日、八ッ場ダム建設の根拠となっている利根川の最大流量(基本高水)を検証する日本学術会議の分科会は、国交省が再計算してはじき出した数値、毎秒 21,100 m<sup>3</sup>を「大きな誤りはない」として容認した。

この数値は、同省がこれまで約30年間主張してきた毎秒 22,000 m<sup>3</sup>をわずかに下回るにすぎないもので、森林成長による保水力向上を過小評価しているのではないかとの疑問が、森林や河川工学の専門家から出され、同分科会の判断に注目が集まっていた。この追認は、今後のダム建設是非の議論を左右するだけに見過ぎすわけにはいかない。さっそく動き出したのが、長年ダム問題を追及してきたジャーナリストのまさのあつこさん。「治水のあり方ソフト研究会」を急遽立ち上げ、市民の立場から同分科会の検証作業を「検証」するセミナーを国会議員会館で連続開催することとなった。

**第1回 6月28日** 自民党の河野太郎議員と関良基先生がメインスピーカーで、テーマは、「国交省が『飽和雨量』を何度も変えたのに、基本高水がほぼ変わらなかったのはなぜか?」。2008年裁判所に国交省が提出した資料では、全流域を飽和雨量 48 mm で計算して基本高水を毎秒 22,000 m<sup>3</sup>としていた。けれども利根川上流部は森林が多いのに、水田なみの 48 mm はいかにも不適切で、その分基本高水が過大計算されているのではないかとの疑いがもたれた。昨年10月、国会質問で馬淵澄夫大臣は飽和雨量が操作されていたことを率直に認め、再計算を約束したのである。この答弁を引き出したのが河野太郎議員だった事実は記憶に新しい。



▲(左から)関准教授と河野議員

この日、河野議員はその質疑の背景をふりかえりながら「データの操作やねつ造によって公共事業を進め、無駄が跡を絶たない」と語る一方、自民党内ではこのような総論の議論はできても、個別事業には踏み込ませない党内体質があることを曝露した。そして、馬淵大臣を辞任に追い込んだ勢力は「次に学術会議のおすみつきをもらってダム建設に踏み切ろうという魂胆がある」と述べた。

次に関良基先生は森林学の専門家として同分科会で参考意見を発表し、その後も要請書を提出して経過を注視してこられた立場から「学術会議はこの数値を追認すべきではない。科学的事実を、権力の介入によって捻じ曲げてはならない」と批判(詳しくは巻頭記事参照)。

両氏に共通した認識は、原子力村と同じく河川村における「学」も「官」「業」と一体となっているという指摘である。日本学術会議の権威の失墜と河川局の犯罪性が明らかになった集会であった。(田中清子)

**第2回 7月7日** テーマは「八ッ場ダム根拠『基本高水』は達成可能か」。国交省は、カスリーン台風時に八斗島(洪水基準点)を実際に流れたとされる流量 17,000 m<sup>3</sup>/秒と基本高水 22,000 m<sup>3</sup>/秒との差を、八斗島上流で氾濫したからだ、などと説明している。

大熊孝新潟大学名誉教授は、40年前のご自身の博士論文で、こうした上流部の氾濫が実際には起こっていなかったと実地調査で明らかにしたこと、今回の学術会議の資料でも、相変わらず氾濫しなかったところを浸水地として色塗りしていることを指摘して、「河川工学は40年間まったく進歩がない。同じ土木屋として非常に残念だ」と声を震わせた。

まさのさんは、集会直前に群馬の現地取材し、写真と氾濫図を比較しながら「この(現地の)方が、ここは氾濫していないと言っていました」と大熊先生の話さらに補強。

さて、「今回の国交省新モデルはどのような意義を持つのか?」と問われた国交省の河川計画課の里村晋吾課長補佐、一般人にわかるはずもない流出計算モデルの数式を、K だの P だのと延々と説明し、「この色塗りしたところが実際に氾濫したかどうか調べたんですか?」という突っ込みには、「以前の資料から計算した」とニコヤカに繰り返すのみ。

最後に松野信夫議員が「熊本県の路木ダムで洪水をねつ造したのと同じケースだ」、大河原まさ子議員が「開かれた公聴会のような場で国民全員が検証できるよう、公共事業チェック議員の会としても考えていきたい」としめくくった。(深澤洋子)

# 市民運動が勝つためには

# ＝保坂のぶとさん講演＝

## 現場レポート「ハッ場ダムはなぜ止まらないのか」上映 & 嶋津暉之さん講演

世田谷区長に当選したばかりの保坂のぶとさんを講師に迎えた講演会とビデオ上映会が5月7日豊島区生活産業プラザの一室で開催された。主催はハッ場ダムをストップさせる東京の会とハッ場あしたの会。工事が全く止まらないハッ場ダムの現状を保坂さんが取材・制作したDVDを上映し、ご本人からもお話をいただいた。

保坂さんは世田谷区民の要請に急遽、準備期間もまったくない状態で立ち4月24日当選、これまで周到に準備した選挙が負けていたので、「選挙は用意が良ければ勝つというものではないようだ」と語られた。

ハッ場の現地は推進派の巻き返しで大変だが、中々こういう状態では反対派が押されぎみになる。推進派は現地にずっと活動できるのに対してどうしても市民運動は現地に常時張り付いていることができない。また、公共事業に反対して環境保護を唱えた国会議員は大抵次の選挙で落選している。このような議員を支える力も持つことも運動の継続と勝利のために必要だ、と説かれた。現実にとしたらハッ場ダム中止を実現できるのか、という会場からの質問に対し、「真剣に全力でハッ場の問題に取り組む国会議員が一人でもいれば変えられる」と答えられたのも、国会議員時代の保坂さんの活躍を知っている私たちにとっては説得力があった。

また嶋津暉之さんは国交省自らが進めている「ハッ場ダム検証」の問題点を徹底的に検証し解説した。科学的な検証が実施されればハッ場ダムは不要という結論になることは確実なのだが「有識者会議」ではダム懐疑派は委員から排除されており、ダムに関係する自治体の推進の大合唱、などによって困難な状況におかれていることを説明された。

会場には、都議会民主党の馬場裕子さんも来て下さり、都議会も石原知事再選、与党多数に勢力逆転と不利な情勢だが、ハッ場に取り組む体勢を立て直して、皆さんと一緒に取り組みたいと話された。

ハッ場ダムの検証結果が出るのは、今年の秋とされており、時間はない。ダム利権を手放してはならじと、「やっぱり必要」への誘導路を着々と敷き詰めつつある国交省と御用学者たちに対し、世論を動かし、政治家を決起させるために、あらゆる角度から全力で問提起し働きかける市民運動の底力が今、求められている。

(懸樋哲夫)

### 各地の裁判日程

東京	9月30日(金)	午後2時30分	東京高裁	第5民事部(進行協議)
茨城	10月13日(木)	午後3時30分	東京高裁	第10民事部(進行協議)
埼玉	10月20日(木)	午後3時30分	東京高裁	第24民事部(進行協議)
群馬	11月15日(火)	午後2時30分	東京高裁	第11民事部(進行協議)
千葉	11月25日(金)	午後4時00分	東京高裁	第22民事部(進行協議)

### お知らせ

福島原発事故で水力発電が注目されていますが、ハッ場ダムは《電力が減るダム》！説明チラシをあしたの会で作成中。配布していただける方は深澤までご一報を(Tel/Fax042-341-7524)

### ◆8月2日、治水の情報公開裁判の判決が出ます！

ハッ場ダムの高橋利明弁護士団長が原告となって、昨年9月に提起した、基本高水の計算データの公開を求める訴訟、裁判長は、原告の主張を「説得力がある」と評価していました。

ところが、4月に裁判長が交代、新裁判長は誰だろう、ハッ場ダム住民訴訟で真っ先に不当判決を出した東京地裁の定塚誠裁判長なのです！

何としても基本高水22,000m<sup>3</sup>/秒を検証させたくない国交省から、再び送り込まれたターミネーターなのか？

それとも高橋団長、大川弁護士のおっしやる通り、これは単なる配置転換で、筋から言って、必ず勝つ裁判なのか？

日本の司法の品質がわかる判決を、ぜひ大勢で傍聴しましょう！

8月2日(火) 午後1時25分 東京地裁 522号法廷

### ◇会費納入・カンパのお願い

私たちの活動は、みなさまの会費、カンパで支えられています。

ご協力をお願いします。

会費：1000円/年

振替：00120-8-629740

ハッ場ダムをストップさせる東京の会

